



IAPH 第31回広州総会 報告

# Plenary Session

<An Integrated Approach to Sustainable Port Development>

Wed,8, May 2019

神戸市港湾局みなと振興部

Port and Harbor Bureau, Kobe City Government

林 千景

Chikage Hayashi

# Plenary Sessionの概要

## ■ Plenary Sessionのテーマ:

「持続可能な港湾の発展に向けた統合的なアプローチについて」

<An Integrated Approach to Sustainable Port Development>

## ■ テーマの趣旨

持続可能な開発目標(SDGs)とは、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットからなる国連が策定した開発目標である。

経済的、社会的など多様な側面をもつこの開発目標に対して、世界の港湾ではそれぞれどのような取り組みを行っているのか。各港のアプローチについて共有する。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



テーマ	発表者	所属
1 広州港の持続可能な港湾開発	徐 紅雨	広州市港湾局
2 都市との共存を目指して —APECグリーンポートの活動事例—	于 秀娟	APSN
3 パネルディスカッション	テサ・メイヤー	アス港(ブラジル)
司会:パトリック・フェアホーヘン(IAPH)	ロージー・メルセル	オークランド港(ニュージーランド)
	リ・ユンヒュク	釜山港(韓国)
	エリック・ド・デケール	アントワープ港(ベルギー)
	ハディザ・バラ・ウスマン	ナイジェリア港(ナイジェリア)

# 1. 広州港の持続可能な港湾開発

徐 紅雨(広州市港湾局副局長)

## ■ 広州港の概要

- ・珠江デルタに位置する華南最大の貿易港
- ・開港以来2,000年以上の歴史
- ・100カ国/400港以上と貿易、44の姉妹港
- ・貨物取扱量:6億1,300万トン(2018年実績)  
コンテナ取扱量:2,192万TEU(2018年実績)

## ■ 広州港の利点

- ・立地の優位性
- ・広域な背後圏(珠江デルタの中心)
- ・鉄道、高速道路、内陸水路網の発達
- ・豊富な貨物取扱種類  
(コンテナ、バラ積み、石油、自動車、客船)



## ■ 持続可能な港湾開発への取り組み

- ・地域的な連携: 一帯一路、粵港澳大湾区
- ・戦略的な設備投資: 南沙港区の大規模開発
- ・経済特区(自由貿易試験区):  
広東自由貿易試験区(南沙)、広州南沙保税港区
- ・技術革新、スマートポートの実現
- ・グリーンポート

## 2. APEC グリーンポートの活動事例

<都市との共存を目指して>

于 秀娟 (APSN事務局長)

### ■ APSN (APEC Port Service Network) の概要

- ・APEC域内における港湾関係者(公民含む)のネットワーク構築を目指す取り組み。
- ・中国政府の提案で、APEC交通ワーキンググループ内に設置。
- ・18カ国/地域により構成され、日本も加盟。



### ■ 活動事例

- ロングビーチ港
  - ・船舶の陸電利用(2020年までに80%以上)
  - ・グリーン・フラッグ・プロジェクト  
航海速度を自主的に減速した船に対して、  
港湾設備使用料を減免
- シンガポール港 (MPA)
  - ・グリーン・シップ・プログラム  
船舶のエネルギー効率設計+認定SOxスクラバー搭載  
→船舶登録料75%、トン数税50%減免
- バンクーバー港
  - ・船舶による鯨への騒音規制
- ジュロン港 (シンガポール)
  - ・太陽光発電

### ロングビーチ港の事例

### 陸電利用割合



2014-2016



2017-2019



2020



## 2. APEC グリーンポートの活動事例

### Port of Guangzhou



RTGのディーゼル燃料を  
電気に代替



バース停泊中の船舶に  
陸電供給



バラ積みターミナルに  
AI照明を導入

# 3. パネルディスカッションの概要

司会



パトリック・フェアホーヘン  
(IAPH / 専務理事)

パネル



テサ・メイヤー  
(アス港 / 最高商務責任者)



ロージー・メルセル  
(オークランド港 / サステナビリティ部門長)



リ・ユンヒュク  
(釜山港 / マーケティング主任)



エリック・ド・デケール  
(アントワープ港 / CSRマネージャー)



ハディザ・バラ・ウスマン  
(ナイジェリア港 / 専務理事)

### 3. パネルディスカッションの様子



# 3-1. パネルディスカッション

## ■ 持続可能な港湾開発に向けて、どのような統合的なアプローチを行っているか？

発表者	回答
アス港	<ul style="list-style-type: none"><li>・アス港は<b>民間港</b>だが、利益の追求だけでなく環境にも配慮(2014年開港)<ul style="list-style-type: none"><li>①安全性 ②港湾労働者の教育 ③港湾開発のためのライセンス取得</li></ul></li><li>・小さい港のため、<u>草の根活動的なプロジェクト</u>にも積極的(<b>亀の放流</b>等) ⇔大きな港では、<u>長期的な大規模プロジェクト</u>を行える</li></ul>
オークランド港	<ul style="list-style-type: none"><li>・コストの削減だけでなく、持続可能な港湾開発が必須</li><li>・船舶の<b>排出ガス規制</b>に注力</li><li>・ターミナルの<b>自動化</b></li><li>・ステークホルダーへの透明性</li></ul>
釜山港	<ul style="list-style-type: none"><li>・港湾の再開発プロジェクト→職を失った職員に<b>補償</b> ⇔法的なフレームワークがなく混乱</li><li>・2004年より「釜山港湾公社」発足 →市民へのPRのため、<b>港湾視察ツアー</b>を毎日実施</li></ul>
アントワープ港	<ul style="list-style-type: none"><li>・経済危機に対応するため、2011年頃より本格的な議論を開始。</li><li>・環境に対する取り組みは、<u>港湾の経済発展にも不可欠</u>。</li><li>・移動手段(<b>モビリティ</b>)の変革→<b>気候変動</b>に直結</li><li>・ターゲット設定→日々の行動／ユーザーとの連携</li></ul>
ナイジェリア港	<ul style="list-style-type: none"><li>・大型船舶の受入のため港湾開発(岸壁拡張など) →浚渫で発生する土砂の処理等</li><li>・<b>クリーンパワー</b>の供給により、都市と港の近接性を確保</li><li>・<b>石油製品のパイプライン</b>の活用</li></ul>

## 3-2. パネルディスカッション

### ■ (競合する)他港とは、どのように連携しているか？

発表者	回答
アス港	<ul style="list-style-type: none"><li>・<b>アントワープ港より出資</b>を受けている</li><li>・今回のIAPH総会において、<b>広州港とMoU</b>を提携</li><li>・自港のコミュニティ内での連携を重視</li></ul>
オークランド港	<ul style="list-style-type: none"><li>・各部署間での連携が重要</li><li>・大規模な港(バンクーバー、ロッテルダム、アントワープ)をベンチマーク</li><li>・現在、ニュージーランドではリーダーシップを発揮</li></ul>
釜山港	<ul style="list-style-type: none"><li>・<b>異なる運営主体(国、自治体、民間)</b>の場合、連携が難しい →共通点を見いだせれば連携可能</li></ul> <p>※IAPH(WPSP)の170港湾も多様性に富む</p>
アントワープ港	<ul style="list-style-type: none"><li>・近隣の港と、ビジョンや最適事例を共有</li><li>・特に、欧州では<b>モビリティ・気候変動</b>が共通の課題</li></ul>
ナイジェリア港	<ul style="list-style-type: none"><li>・発表者自身がIAPH アフリカ地域 副会長 →地域、大陸全体での連携を目指している</li><li>・<u>プロジェクトや環境アセスメント自体がゴールではない。</u>今後の連携が重要</li></ul>

## 3-3. パネルディスカッション

### ■ 今後、WPSPに期待することは何か？

発表者	回答
アス港	インスピレーション(刺激)、ガイダンス
オークランド港	ガイダンス、報告
釜山港	最適事例の共有 →ファイルをアップロードできれば、詳細なデータ交換が可能
アントワープ港	ロードマップ、知識の共有
ナイジェリア港	(時間切れのため回答無し)

## 4-1. ワールド・ポーツ・サステナビリティ・プログラム



### WPSPとは

2017年5月12日、IAPHにおいて設立が決定された、世界の港湾における持続可能性に対する取り組み。

国連の開発目標(SDGs)に基づいて、世界の港湾における持続可能性への取り組みを強化し、あらゆるパートナーとの国際協力を促進する。

本プログラムは、2008年に開始されたIAPHの地球温暖化への取り組みである「世界港湾気候イニシアティブ」を基に設立された。

# 4-2. ワールド・ポーツ・サステナビリティ・アワード

## IAPH World Ports Sustainability Awards 2019



### Resilient Infrastructure

- Abu Dhabi Ports – MAMAR project



### Climate and Energy

- Port of Amsterdam - Integrated Green Energy Solutions



### Community Outreach and Port City Dialogue

- Port of Busan - Reinventing unused port space (Port Development)
- CIVITAS PORTIS project (Addressing Externalities)



### Safety and Security

- Port of Antwerp – PIN project



### Governance and Ethics

- Kenya Ports Authority - Tunahusika Corporate Social Investment program